

安澤武郎

YASUZAWA TAKERO

ひとつ上の
思考力

A black silhouette of a person sitting and leaning forward with their hand on their chin, representing a state of deep thought or contemplation. This silhouette is positioned between the characters 'つ' and 'の' in the title.

HIGHER ORDER THINKING SKILLS

CROSSMEDIA PUBLISHING

はじめに

世の中には、頭がいいと言われている人がいます。

あなたもきつとこれまでの人生でそのような人に出会ったことがあるでしょう。

頭がいいと言われている人は、少し説明をしただけで、「あ、それはこういうことですね」と、1を言えば10わかってしまう。また、質問があるかどうか尋ねると、的を射たするどい問いかけを返してくる。何をやらせても的確に行動し、そつなくこなす。

一方で、1から10まで説明が必要な人、的はずれな質問をしてくる人、何をやってもうまくいかない人もいます。

この差は、どこから生まれるのでしょうか？

単に頭がいい、よくないということだけで片づけられる問題でしょうか？

私は基本的に、文章の読み書きができて、普通に人とコミュニケーションが取れる人は誰でも頭がいいと考えています。では、その中でも差が生まれるのはなぜなのか？

それは、感じる力・考える力の差です。

言い方を換えると、経験から学び応用する力と言ってもいいかもしれません。

先ほど述べた1を聞いて10わかる人は、なぜ1の情報から10を導き出せるのでしょうか？

見えていない残りの9をいかにして導き出しているのでしょうか？

見えていない世界を見る力、これこそ経験学習のたまものです。

世の中には2種類の人がいると言えます。

経験から学んだことを別の事象に応用できる人と、経験したことと同様の事象であれば、経験を活かせる人。後者でも多くのことを経験していけば、さまざまな事象に対応することが可能になります。ひとつの経験から法則を見出し、他の事象に応用できる前者と比べると、その成長スピードの差は歴然です。

この経験から法則を見出し応用する力を、本書では「ひとつ上の思考力」とし、どうすればそれを身につけることができるのかに焦点を当てて、解説をしていきます。が、その前にまず経験から学び応用できる人とできない人の違いについて見てみましょう。

次ページの図をご覧ください。

上の図のように、人は皆、仕事の中で何らかの目標を持ち、その目標を達成するために必要な行動を実践し、何らかの結果を得ています。これを「シングルループ」と言い、大抵の人はここで止まってしまうため、せっかく得た貴重な体験を十分に活かすことができていません。

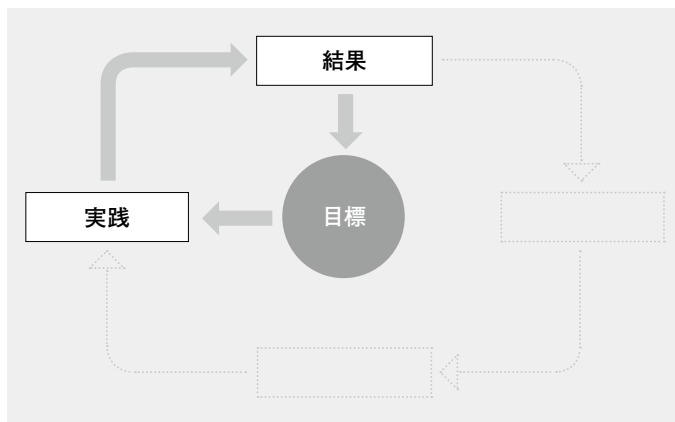
一方で、経験から法則を見出し応用できる人はシングルループに加えて、もうひとつの別のサイクルを回しています。これが下の図で示した「ダブルループ」です。

ひとつ上の思考力とは、シングルループのもうひとつ先のこのダブルループを回す力のことを指します。このダブルループを回す仕事のやり方を会得し習慣化すれば、アウトプットのスピードや質はどんどん高まります。1を聞けば10わかる頭のいい人のように、生産性の高いハイパフォーマンスへと変わることができます。

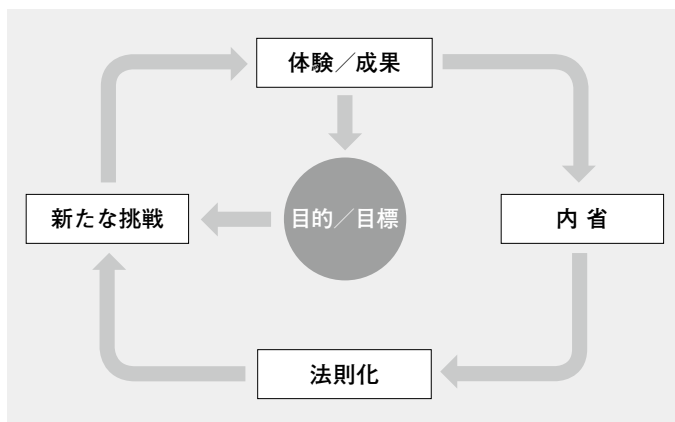
本書は、はじめにダブルループの全体像について説明します。次に、ダブルループを回す上で重要な4つの要素（「目標を活用する」「自分自身を振り返る」「法則を見出す」「挑戦により進化する」）について、一つひとつ紐解いていく構成になっています。

はじめに

応用できない人 (シングルループ)



応用できる人 (ダブルループ)



第1章では、シングルループとダブルループの違いを、具体的な事例を交えながら詳しく説明していきます。

第2章は、4つの要素のひとつめ「目標を活用する」についてです。

「目的と目標」についてはさまざまな本でも語られていることですが、この本でもあえてこれらを扱う理由は、目標には応用力を発揮させるための知恵を引き出す力があるからです。ただし、目標は正しく理解した上で上手に使いこなさないと、逆効果になります。この章では、応用力を発揮するための目標の目指し方、目的と目標の関係について解説します。

第3章は、「自分自身を振り返る」についてです。

人には「見たいように現実を見る」という性質があります。そのため何か問題が起きたとき、その原因を自分自身ではなく外に求めてしまいがちです。しかし、自分自身を振り返らずに外に原因を求めた時点で、思考は停止してしまい先には進めなくなります。

人間は感情で動く生き物ですが、本能のままにモノゴトを捉えるのではなく、感情をコントロールし、自分の姿を客観視することで見えていなかったものが見えるようになります。ここでは、モノゴトの捉え方について解説します。

第4章は、「法則を見出す」についてです。

応用力を持ったハイパーフォーマーになるための肝と言ってもいいでしょう。

何かを実行し、いい結果を得ることができても、なぜうまくいったのかというメカニズムが見えていなければ、再現性を持たせられません。「たまたま」で終わりにしてしまうのは、とてももったいないことです。

法則を見出せるようになれば、自分自身の経験はもちろん、他業界や他者の成功事例をも応用することが可能になります。また、後輩や部下が壁にぶつかっている場合にも的確なアドバイスをしてあげることもできるでしょう。

法則を見出すという一見難しいように感じますが、誰でも身につけることができるスキルです。ここでは、その法則を見出すためのコツをお伝えします。

そして、最後の第5章では「挑戦により進化する」について解説していきます。

成功体験や失敗体験というものは、それが強烈であれば強烈であるほど、人の心を縛ってしまいます。しかし、世の中は常に変化しています。また、自分自身も歳をとり立場が変わっていきます。過去の成功法則がそのまま通用しなくなっていくのです。世の中や自分の変化に合わせて、法則を進化させるために必要なことをお伝えします。

本書を通じて、シングルループのひとつ上の思考力、ダブルループを回す仕事のやり方を身につけることができれば、より成果を出して高い評価を得られる、周りの人から感謝されることが増えていきます。これからの時代に、能力を高め、仕事において高いパフォーマンスを残し、周りの人々と幸せな人生を送ることのできる人が増えることを、心から願っています。

ひとつ上の思考力 もくじ

はじめに 002

第1章

ハイパフォーマンスへの鍵は ダブルループにあり

- 01 東大に受かりたかったら、まずは優秀な先生を捕まえる 016
- 02 あなたがもし、靴屋さんの販売員だったら 022

Column 1

仕事の生産性を高めるための作戦 029

第2章

目標を進化させ、知恵を引き出す

- 01 目標を上手に取り扱うことができれば、目的は格段に近づく 034
- 02 「必ず達成」の反対は「未達はNG」ではない 039
- 03 目標を進化させることができますか？ 043
- 04 面談「ゴール達成率100%は本当にスゴいのか？」 048
- 05 「頑張れる目標」と「頑張れない目標」の違い 053
- 06 南極での遭難から生還した冒険家が
優秀な仲間を集められたわけ 060
- 07 成果の出ている人よりも足りない人を評価する 063

Column 2

仕事の生産性を高めるための出発点

071

第3章

自分自身を振り返る

- 01 「あの人はこう考えている」は本当か？ 076
- 02 おいしいと感じるあなたがいるからお茶はおいしい
083
- 03 あなたのコンプレックスは何タイプ？ 087
- 04 成功している企業ほど社員が育たない 092
- 05 あなたは変革志向？それとも安定志向？ 098
- 06 「成功する人の条件」は間違っていた 101
- 07 「やるべきこと」「やりたいこと」「やりたくないこと」 105

第4章

モノゴトの法則を見出し、言語化する

- 01 なぜ売れたのか？「因果関係」を読み解くためには 114
- 02 ダイエットをしてみよう 119
- 03 自分を「売る」ために考えるべきこと 124
- 04 変化のきっかけを見逃すな 131
- 05 「答え」ではなく「解き方」を武器にする 133
- 06 あらゆるものは「はたらき」の構成要素に分解できる 137
- 07 ハリウッド映画が面白いわけ 142
- 08 宗教が世界中に広まったのはなぜか？ 147
- 09 ムダな仕事をなくすたったひとつの習慣 152

10 ハイアットのコンシェルジュが接客時にしていること 158

11 在庫もレジもないお店を経営できますか？ 162

12 言葉を借りて、言葉を増やす 167

13 自分なりの言葉で表現するには？ 173

14 あなたはどれほどの自論(マイルール)を
持っていますか？ 176

15 法則は言葉にできなくても大丈夫 180

16 100年前から30も上がっている人類のIQ 184

第5章

成長を加速させる「新たな挑戦」

01 先生の言うことをあまり信じてはいけない 190

- 02 2種類の挑戦を使い分ける 192
- 03 地図を手にすることで上達が早まる 195
- 04 完璧な選手になろうとすると負ける 199
- 05 ちぐはぐな会話を予防するコツ 203
- 06 考え方の違いは行動の節々に現れている 209
- 07 人に向き合つてはいけない 217
- 08 フレーム思考の落とし穴 222
- 09 「成果」という種からしか果実は実らない 229

おわりに

232